

## 「研究大学強化促進事業」令和元年度フォローアップ結果

機関名	令和元年度フォローアップ結果
奈良先端科学技術大学院大学	<ul style="list-style-type: none"><li>○事業全体が順調に進捗していると判断される。今後も成果と取り組みの継続に期待したい。</li><li>○URAの自主財源化について順調に進んでいると判断される。</li><li>○Top10%論文割合、若手研究者比率については、更なる取り組みの促進が望まれる。</li></ul>

## 平成 30 年度フォローアップ結果への対応状況と今後の事業展開について

機関名	奈良先端科学技術大学院大学				
統括責任者	役職	学長	実施責任者	部署名・役職	理事・副学長
	氏名	横矢 直和		氏名	箱嶋 敏雄

### 平成 30 年度フォローアップ結果

本事業が順調に推進されており、URA の位置づけも明確にしている。更なる自主財源化率の向上が図られることを期待する。

### 将来構想の達成に向けた現状分析

#### 将来構想 1 【先端科学技術の研究の高度化と新たな研究領域の開拓を行う大学】

##### ① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況

将来の発展に向けた方策として、URA が研究企画力を発揮して新しい研究課題の創出に積極的に関与することによって研究力を強化し、先端科学技術の研究の高度化とともに新たな研究領域の開拓を行うことを将来構想として設定した。

##### ② 現状の分析と取組への反映状況

IR による研究分析に基づき、IR 会議及び戦略企画本部会議での議論を踏まえ、優秀な若手研究人材の育成を加速化させるための方策を学長のリーダーシップの下、重点的に研究資金を投下することを決定した。具体的なアウトプットとして、以下のとおり設定した。

- ・ 若手研究者対象の外部資金獲得のための支援として、競争的研究資金のプロジェクト最終年度において、より上位の種目にチャレンジし、不採択となった 39 歳以下の若手教員に対して、自主財源を用い、一定要件の下で研究費を支援する。
- ・ 平成 30 年度からの 1 研究科体制のスケールメリットを活かした学際融合的な課題の創出に加え、学外との包括協定を活用した融合領域に係る共同研究を、自主財源を用いて、奈良県立医科大学と実施する。

#### 将来構想 2 【国際的に存在感があり競争力の高い大学】

##### ① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況

本事業の成果である国際連携をさらに発展させ、URA の活動を強化するとともに、より戦略的な国際連携体制を確立することによって、人材と研究をグローバル化することを将来構想として設定した。

##### ② 現状の分析と取組への反映状況

現在、これまでに設置した海外研究拠点（2 拠点）と学内の国際共同研究室（3 室）の管理・運営をはじめとした各種の国際連携の取組を行っているが、これらを継続するとともに、JUNBA、JANET 等への運営者としての参画のみならず、海外の URA 組織との連携を強化し、URA の国際ネットワークを活用することにより、戦略的に海外連携機関を探索する。また、スーパーグローバル大学創成支援事業とも連携して国

際連携をより戦略的に進めるために、国際連携戦略推進 PT（仮称）を全学的な組織として設置する。

### 将来構想 3【研究人材の戦略的確保を持続的に行う組織力の高い大学】

#### ① 平成 30 年度フォローアップ結果等コメントへの対応状況

人材の高い流動性を活かした教員の戦略的確保の継続のために、世界 No. 1 クラス教員の確保の指標として、新たに Top 1%論文著者教員数を設定して目標をより明確にした。さらに、将来構想を具体的に実現していくために、研究者リクルーティング体制の強化を構想に反映させた。

#### ② 現状の分析と取組への反映状況

現在、本事業の若手研究者発掘・育成プロジェクトを活用してテニユア・トラック特任准教授を採用する等、優秀な研究者の確保を進めているが、今後、さらに戦略的に教員を確保していくためには、国内外の研究者を常にサーチして、必要に応じて非公募で採用を行う等のリクルーティング体制の確立が必要である。このような体制の強化のため、全学的な取組として人材サーチコミティの立ち上げを取組に反映させた。さらに、教員確保のための環境整備として、女性教員・外国人教員採用におけるインセンティブおよび女性教員へのスタートアップ支援を行うとともに、外国人教員採用スタートアップ支援を新設した。

### ロジックツリー・ロードマップの利活用・横展開状況

ロジックツリー・ロードマップについては、URA が所属する研究推進機構において、毎週開催される URA ミーティングで各事業の進捗状況の共有を図り、毎月開催される機構長の下でのミーティングでの進捗管理を行うとともに、毎月開催の研究推進部会での検証、事業の評価を経て研究推進会議（部局長が参画）の場で事業計画等を決定している。さらに、全学的な案件については、戦略企画本部会議や教育研究評議会において審議決定しており、研究力強化についての PDCA サイクルは整備されている。

また、スーパーグローバル大学創成支援事業においてもロジックツリー・ロードマップが活用され、本学の中期計画及び年度計画の策定にあたっても従前からロードマップは活用されていた。

### 特筆すべき事項（定性的な現状・取組状況等）

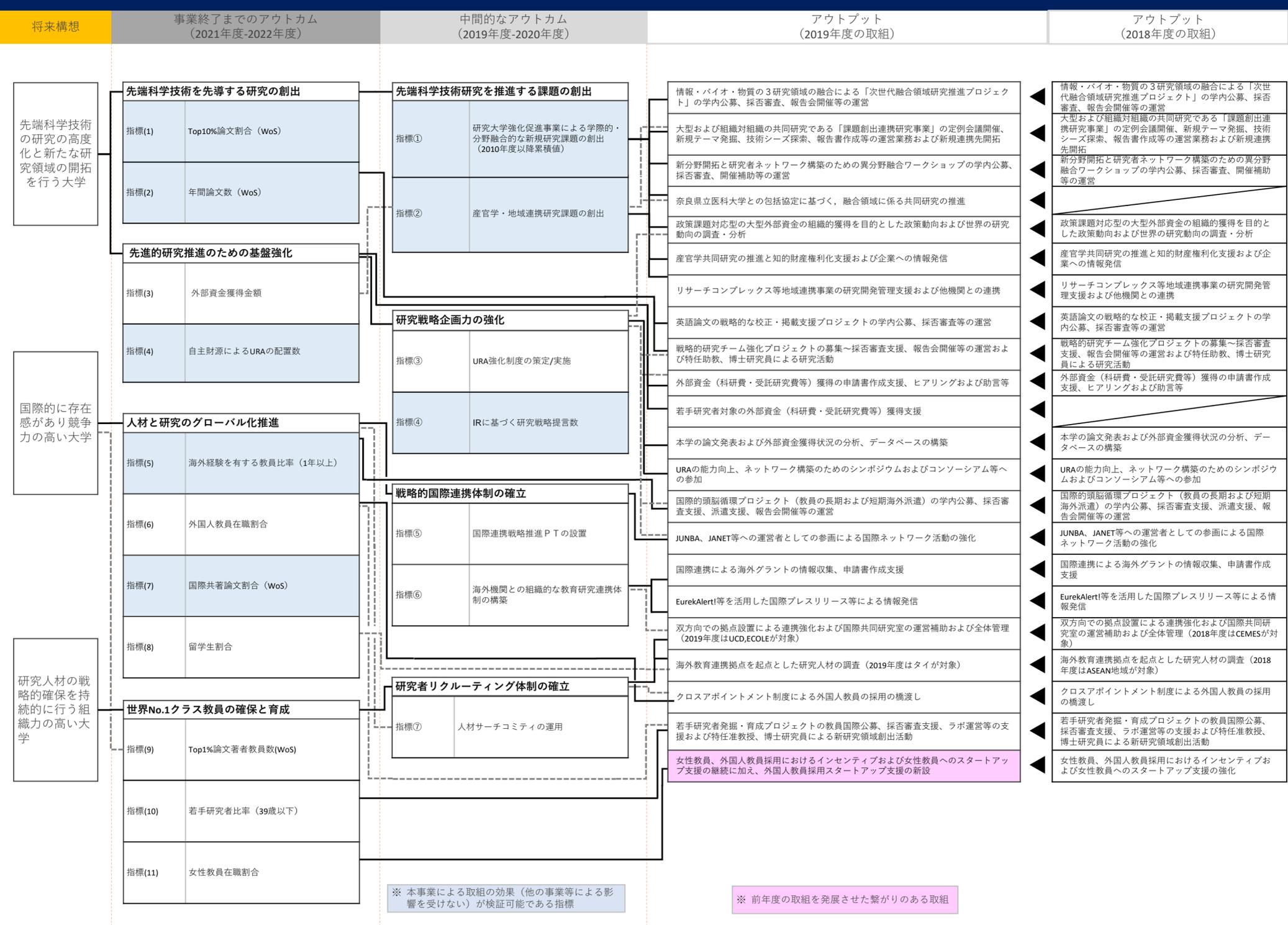
新人事制度（2016 年度構築）で雇用した URA は採用 5 年目の審査を経て無任期雇用に移行するとともに、研究大学強化促進費補助金で雇用している URA については、URA 等の自主財源化計画を前倒して、毎年度 1 名ずつ自主財源での雇用に移行させ、2022 年度当初までに全ての URA を自主財源での雇用に移行することとした。そのため、事業終了までのアウトカムの指標(4)自主財源による URA の配置数の成果目標の見直しを行い、ロジックツリーに反映させた。

また、自主財源化に向けた取組みでは、学術指導制度の実施を 1 年前倒しし、2019 年度から実施した。

### 【参考】論文の質に係る指標について

	Scopus		WoS	
	2013-2017 平均	2014-2018 平均	2013-2017 平均	2014-2018 平均
国際共著論文率	—	—	27.0%	28.4%
産学共著論文率	—	—	3.4%	4.8%
Top10%論文率	—	—	10.1%	9.3%

# 奈良先端科学技術大学院大学「研究大学強化促進事業」ロジックツリー【概要版】



## 奈良先端科学技術大学院大学「研究大学強化促進事業」後期ロードマップ

### (1) 事業実施計画

年度			2018	2019	2020	2021	2022	2023		
将来構想	事業終了までのアウトカム	中間的なアウトカム	アウトプット							
先端科学技術の研究の高度化と新たな研究領域の開拓を行う大学	先端科学技術を先導する研究の創出	先端科学技術研究を推進する課題の創出	情報・バイオ・物質の3研究領域の融合による「次世代融合領域研究推進プロジェクト」の学内公募、採否審査、報告会開催等の運営							
			大型および組織対組織の共同研究である「課題創出連携研究事業」の定例会議開催、新規テーマ発掘、技術シーズ探索、報告書作成等の運営業務および新規連携先開拓							
			新分野開拓と研究者ネットワーク構築のための異分野融合ワークショップの学内公募、採否審査、開催補助等の運営							
			政策課題対応型の大型外部資金の組織的獲得を目的とした政策動向および世界の研究動向の調査・分析							
			奈良県立医科大学との包括協定に基づく、融合領域に係る共同研究							
			産官学共同研究の推進と知的財産権利化支援および企業への情報発信リサーチコンプレックス等地域連携事業の研究開発管理支援および他機関との連携							
		指標①研究大学強化促進事業による学際的・分野融合的な新規研究課題の創出(2010年度以降累積値)			33件					
		指標②産官学・地域連携研究課題の創出			17件 (受入金額1件 500万円以上)					
					英語論文の戦略的な校正・掲載支援プロジェクトの学内公募、採否審査等の運営					
					戦略的研究チーム強化プロジェクトの募集～採否審査支援、報告会開催等の運営および特任助教、博士研究員による研究活動					
指標(1) Top10%論文割合(WoS)							15% (2017-2021年平均)			
指標(2) 年間論文数(WoS)							420報 (2017-2021年平均)			
先進的研究推進のための基盤強化	研究戦略企画力の強化		本学の論文発表および外部資金獲得状況の分析、データベースの構築 URAの能力向上、ネットワーク構築のためのシンポジウムおよびコンソーシアム等への参加							
	指標③URA強化制度の策定/実施				運用開始					
	指標④IRに基づく研究戦略提言数				3件					
				外部資金(科研費・受託研究費等)獲得の申請書作成支援、ヒアリングおよび助言等						
			若手研究者対象の外部資金(科研費、受託研究費等)獲得支援							
指標(3) 外部資金獲得金額							年間20億円以上			
指標(4) 自主財源によるURAの配置数							12名			

国際的に存在感があり競争力の高い大学	人材と研究のグローバル化推進	戦略的国際連携体制の確立	JUNBA、JANET 等への運営者としての参画による国際ネットワーク活動の強化				
			国際連携による海外グラントの情報収集、申請書作成支援				
			EurekAlert!等を活用した国際プレスリリース等による情報発信				
		指標⑩国際連携戦略推進PTの設置		PTの運用開始			
		指標⑨海外機関との組織的な教育研究連携体制の構築		15 機関			
		国際的頭脳循環プロジェクト（教員の長期および短期海外派遣）の学内公募、採否審査支援、派遣支援、報告会開催等の運営					
		クロスアポイントメント制度による外国人教員の採用の橋渡し					
		指標(5) 海外経験を有する教員比率（1年以上）				教授・准教授 70.0% 助教 40.0%	
		指標(6) 外国人教員在職割合				10%	
		指標(7) 国際共著論文割合 (WoS)				35% (2017-2021年平均)	
	指標(8) 留学生割合				博士前期課程 12% 博士後期課程 50%		
研究人材の戦略的確保を持続的に行う 組織力の高い大学	世界 No.1 クラス教員の確保と育成	研究者リクルーティング体制の確立	双方向での拠点設置による連携強化および国際共同研究室の運営補助および全体管理（2019年度はUCD、ECOLEが対象）				
			海外教育連携拠点を起点とした研究人材の調査（2019年度はタイが対象）				
		指標の人材サーチコミティの運用		サーチコミティの運用開始			
		若手研究者発掘・育成プロジェクトの教員国際公募、採否審査支援、ラボ運営等の支援および特任准教授、博士研究員による新研究領域創出活動					
		女性教員、外国人教員採用におけるインセンティブおよび女性教員へのスタートアップ支援の継続に加え、外国人教員採用スタートアップ支援の新設					
		指標(9) Top 1%論文著者教員数 (WoS)				16名 (2017-2021年論文基準)	
		指標(10) 若手研究者比率(39歳以下)				40%以上	
	指標(11) 女性教員在職割合				15%以上		